

<事業名> 「認知症への対応×演劇」(深さを持った演劇のまちづくり) 展開事業

団体名	一般社団法人豊岡アートアクション
所在地	豊岡市
代表者名	中貝 宗治

事業内容	日時	2022年8月1日～12月27日		
	場所	豊岡市民プラザ、豊岡アートアクション事務所等		
事業内容	内容	詳細別紙「『認知症×演劇』講演会の開催について(報告)」及び「『認知症×演劇ワークショップ・プログラム策定の基本方針」を参照		
	地域	但馬全域		
事業の効果	(1) 団体(組織)内の効果	認知症介護は、要は本人と周囲との間のコミュニケーション障害だという認識が得られた。来年度、演劇的手法を活用した認知症介護のワークショップ・プログラムを策定する予定であるが、その際の基本コンセプトが明確になった。		
	(2) 地域への波及	認知症介護に現にあたっている参加者には、「認知症の人が見ている世界を理解し、それに寄り添うことが重要」というメッセージが伝わり、今後の対応の参考になったものと思われる。 ただし、最も重要な波及は、来年度のプログラム策定にかかっている。		
事業経過	月日	実施内容	場所	参加人数
	10月15日	演劇情動療法聞き取り	事務所	4人
	10月16日	「認知症×演劇」講演会	豊岡市民プラザ	121人
	10月17日	認知症デザイン聞き取り	事務所	4人
	～12月27日	来年度作戦の打合わせ	事務所	7人
協働の相手	医療・介護・行政の関係者間で、上述のワークショップ・プログラムの基本コンセプトの共有ができた。			

今後の課題等

(1) 団体（組織）活動を継続するための工夫等

認知症のことを良く知っている専門家と演劇関係者、行政関係者との「制作チーム」を結成し、連携すること。最大の課題であった「プログラム制作費」は、SDGs ジャパンスカラシップ岩佐賞（賞金 300 万円）を受賞したことにより解決済み。

(2) 地域活動を拡大していくための工夫等

まずは、実効性のあるプログラムを制作し、関係介護施設等で実演し、効果を実感してもらおうこと。地域への展開を図るため、プログラム作成時から市等行政との連携を取ること。



4年10月16日 開会あいさつ



4年10月16日 筧裕介氏講演



4年10月16日 会場風景



4年10月16日 座談会